⑶ ぼんぼんと青山様にみる歴史的風致

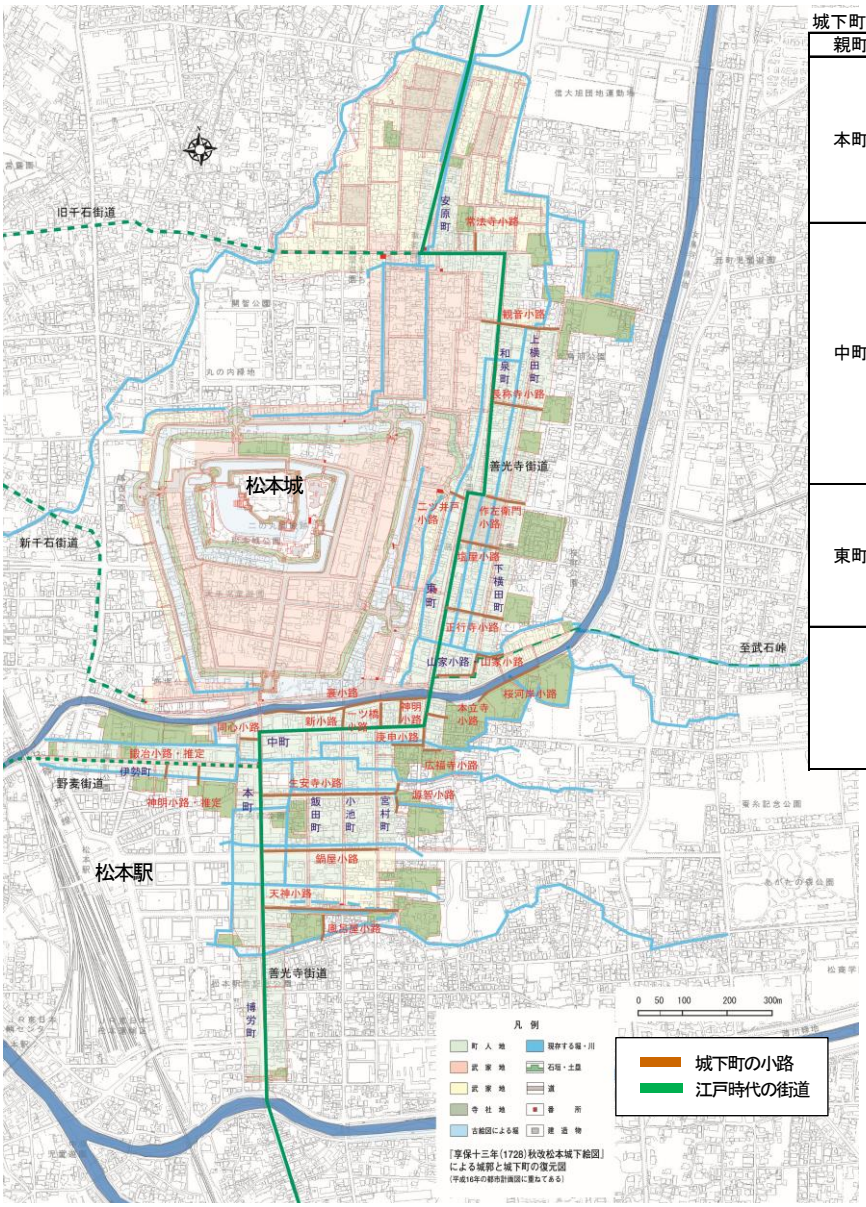
ア　はじめに

８月の初めからお盆前にかけて、松本の城下町では女の子の「ぼんぼん」と男の子の「青山様」が行われます。二つの行事は多くの町会で一緒に行われ、８月上旬の夕方には、浴衣を着てほおずき提灯を持ち、ぼんぼんの歌を歌いながら歩く女の子たちと、青山様と呼ばれる青杉を盛った神輿を担いだ男の子たちが町内を巡る光景が見られます。二つの行事は平成４年（1992）に「ぼんぼんと青山様」という名称で松本市重要無形民俗文化財に指定、平成 13 年（2001）に「松本のぼんぼん・青山様」の名称で長野県の選択無形民俗文化財に選択されています。

イ　歴史的風致を形成する建造物

㈠ 松本城下町の町割（再掲）

前掲（48 ページ）のとおりです。



城下町の町割

親町	枝町	小路
本町		天神小路
		鍋屋小路
		生安寺小路
		同心小路
	博労町	
	伊勢町	鍛冶小路
		神明小路
中町		新小路
		一ツ橋小路
		裏小路
		神明小路
		本立寺小路
		広福寺小路
	飯田町	
	小池町	
	宮村町	庚申小路
		風呂屋小路
		源智小路
東町		桜河岸小路
		正行寺小路
		山家小路
		塩屋小路
		二ツ井戸小路
		作左衛門小路
	和泉町	長称寺小路
		観音小路
	安原町	常法寺小路
	上横田町	
	下横田町	
	山家小路	

ウ　活動

㈠ ぼんぼんと青山様

ａ　ぼんぼんと青山様の概要

松本地方では、七夕とお盆は旧暦７月にあたる８月に行われており、ぼんぼんと青山様は８月上旬の盆前に行われています。

ぼんぼんは、紙で作った花を頭に飾り、浴衣にほおずき提灯をさげ、ポックリ下駄をはいて、夕方のひととき

ぼんぼんとても　きょう明日ばかり
あさってはお嫁の　しおれ草
しおれた草を　やぐらにのせて
下からみれば　ボタンの花
上からみれば　なさけの花よ
ボタンの花は　散っても咲くが
なさけの花は　きょうばかり

ぼんぼん（松本城公園）

などと哀調を帯びたメロディーの唄を歌い町内を歩く行事です。８月の初めからお盆前にかけて城下町の各町で行われています。

かつては現在のように列を組まず、「盆を組む」などといって女の子が互いに肩に手をかけて町のなかを練り歩いたといいます。歌は哀調を帯びたメロディで、先祖の霊をしずめる行事ともいわれています。

女の子が列をなして「ぼんぼんとても・・」といった歌を歌う、七夕踊りといわれる習俗は、江戸時代に起源があり、かつては全国の各地にみられましたが、現在はほとんど伝わっていません。松本のぼんぼんは江戸時代以来の習俗を伝える、全国的にも貴重な行事です。

青山様は「青山神社」という小さな幟を建てた神輿を担ぎ「青山様だい、ワッショイコラショ」などと声を掛けながら町内を巡る男の子の行事です。多くはぼんぼんと同時期に行われ、ぼんぼんの行列と一緒に町内を巡っています。町内を巡る際にお賽銭を集めているところもあります。神輿には先祖の霊を迎えるものといわれる青杉が盛られます。

青山様

ぼんぼんと青山様は、江戸時代末期から明治時代にかけて、城下町の親町三町である本町・中町・東町を中心に始まったといわれます。

昭和８年（1933）刊行の『松本市史』に、当時のぼんぼんと青山様の様子が記載されています。「男の子供は神輿の屋根を杉の葉にて覆い、青山神社という幟を建て、白布にて汗止め鉢巻を成し、ワイッショワイッショと音頭面白く市中を練り廻り、嬉々として喜び、女子は盆を組むと称し、華美な襷（たすき）を掛け提灯を持ち、手と手をつなぎて「ぼんぼんとても今日明日ばかり明後日は山のしなれ草云々と謡い、市中を押

しあるく」とあり、現在も当時とほぼ同様の姿で行われていることが分かります。

b ぼんぼんの歴史

松本のぼんぼんの起源は明らかでありませんが、江戸時代の江戸や京都などで、女の子が列をなして歌を歌う行事が行われており、その歌詞に現在の松本のぼんぼん歌と同様のものがあったことが記録されています。

延宝４年（1676）に著された『淋敷座之慰（さびしきざのなぐさめ）』という当時の江戸の流行歌謡集には、「盆踊哥品々」として「盆々々も今日明日ばかりあさつては嫁のしおれ草」とあります。江戸時代前期の江戸で、現在の松本のぼんぼんの歌と同様の歌が盆踊り歌として歌われていたことが分かります。

喜田川守貞が嘉永６年（1853）に著した『守貞漫稿』（『類聚（るいじゅう）近世風俗志』として明治41年（1908）に刊行）には、「盂蘭盆戯（うらぼんぎ）」として、７月初めから末にかけて、女の子が数人ずつ手をつなぎ、小さい順に横に二、三列の列をなして唄を歌って歩く行事（七夕踊り）が記載されています。この行事は、京都では「さあのや」、大坂では「おんごく」、江戸では「ぼんぼん」と呼ばれていること、京都では盛んに行われているが、大坂では次第に行われなくなり、江戸では京都や大坂ほど盛んではないことが記されています。採録されている江戸のぼんぼんの歌詞の中に、「盆の盆は今日明日ばかり　明日は嫁のしおれ草　しおれた草をやぐらへあげて　下から見れば　ぼけの花　ぼけの花」があります。

また、江戸時代の松本地方の様子が分かる記録として、菅江真澄（すがえますみ）が洗馬（せば）村（現在の塩尻市洗馬）に滞在した時に書いた『伊那の中路』（天明３年・1783）、『くめじの橋』（天明４年・1784）があります。どちらも７月７日の七夕と、７月13日の盆の様子が記録されています。

『伊那の中路』には、洗馬村の様子として、７月７日に、「夜の明けるのを待って、子供たちは小さい人形の頭に糸をつけて軒に引き渡し、日暮れの空を待ち、女の子た

『伊那の中路』の七夕人形

『伊那の中路』の踊りの図

『くめじの橋』の七夕人形

ちはお化粧し、きれいに着飾って大ぜい集まり、ささらをすって歌をうたう。」とあり、軒先に飾られている七夕人形の挿絵が添えられています。七夕人形を飾ってから、着飾った女の子たちが集まって歌を歌っていることから、七夕踊りと人形を飾る習俗が一連の所作だったことが分かります。七夕に人形を飾るのは、人形に災厄（さいやく）を移して身を清める行為が変容したものとされており、少女たちが、七夕踊りで祖先の霊を迎える前に、潔斎を行っていたことがわかります。

７月 13 日は、「日も暮れようとする頃、女の子たちが七日の夕と同じく着飾って、『おお輪にござれ、丸輪にござれ、十五夜さんまのわの如く』と歌い、ささらをすり、群れだってあるいている。」とあり、着飾った女児が輪になっている挿絵が添えられています。この歌詞によく似たものとして、『淋敷座之慰』に採録されている盆踊り歌に、「真丸御座れ御座れ、十五夜月の輪のごとく」があり、江戸で歌われていた歌がこの頃には松本に伝えられていたことが分かります。

翌年の『くめじの橋』には、田沢（現在の安曇野市田沢）の様子が記録されています。７月７日に、「女童が竹の小枝に糸を引きわたして、小さい男女の人形をつくり、いくつとなくかけならべたものを、秋風がさっと吹きなびかしていた。」と挿絵とともに記しています。

７月 13 日は、夕方に庭で白樺の皮を燃やして皆で先祖の戒名を読み上げて拝み、念仏を唱えた後、子供たちが手をたたき、「南無釈迦如来、南無釈迦如来」と唱え、踊りを踊ったことが記されています。

菅江真澄の記録には、現在の松本のぼんぼんのように、女の子が列になって歌を歌う様子は記されていませんが、江戸などの盆歌がこの頃には松本地方に伝わっていたことをうかがうことができます。

また、七夕に人形を飾る風習は、かつては松本の城下町で行われていました。松本の城下町の家の一般的な造りは、切妻造平入の２階建の主屋が通りに面し、中庭を挟んで奥に蔵がありました。主屋は前半分が店舗、奥半分が生活空間となっていました。そして、『伊那の中路』にあるように、中庭に面した主屋の軒下に七夕人形が飾られました。区画整理と道路の拡幅により、江戸時代の雰囲気を残す建物は限られ、七夕人形を飾る家はほとんどなくなっています。

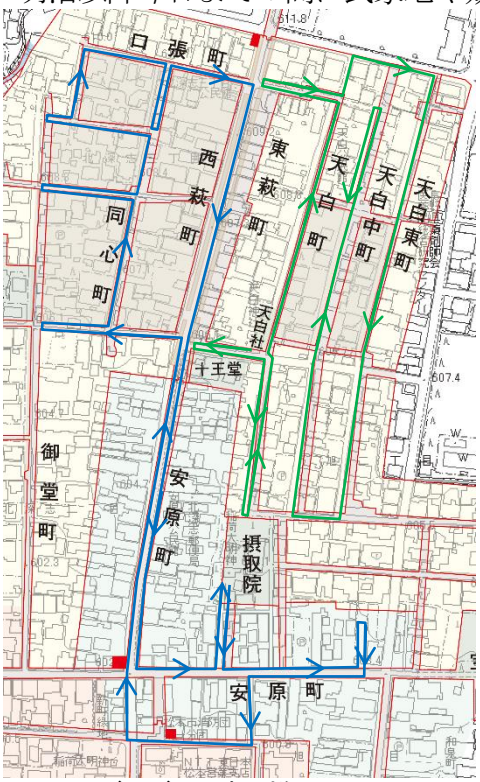
ｂ 青山様の歴史

青山様の名称は、杉の葉を盛った「青山仕立て」の神輿に由来しています。昭和12年（1937）の今井武志の「天白様、青山様と盆々の話」には、ぼんぼんの群行中に他の町のぼんぼんの行列と出会うと「〇〇町はいやよ、〇〇町はいやよ、〇〇町の子供はいけない、人見りゃ石を投げる」といった相手の悪口の唄を歌い、喧嘩が始まるとあり、その際に青山様の男子が応援に来て、後の喧嘩は男の子供に任せて女子は逃げ去ったとあります。

昭和９年（1934）の武川乃粼の「松本の八月の行事」には、当時の深志神社の神主の話として、明治初年頃から夏の深志神社の例祭が済むと、青山神社と称し杉葉神輿を担いで市内を練り歩くようになったことが記されています。

c 現在のぼんぼんと青山様

ぼんぼんは城下町の町屋から始まりましたが、明治以降今日までの間に武家地や城下町の外にまで広がりを見せています。城下町の町屋は、女鳥羽川の南側から東側を通っている善光寺街道沿いに位置しています。行事をおこなう範囲は次第に広がり、現在では周縁部の新興住宅地でもぼんぼんや青山様を行っているところがあります。城下町では、各町ごとに二つの行事が行われていましたが、近年は少子化等のため、複数の町会で行っているところが多くなりました。



ぼんぼんと青山様のルート
（口張町・同心町・天白町・安原町）

城下町最北部の武家地であった萩町、口張町、同心町、天白町、善光寺街道沿いの町人地であった安原町では、現在、５つの町が一緒にぼんぼんと青山様を行っています。５つの町のぼんぼんと青山様は８月上旬の２日間にわたって行われ、ぼんぼんの女の子たちの行列と青山様の男の子の行列が一緒に町内を巡っています。１日目は天白神社に集合し、天白町と東萩町を巡り、２日目は安原町の稲荷神社に集合し、安原町を巡った後、北側の同心町、口張町、西萩町を巡っています。

現在では、ぼんぼんの行列が他の町会の列と出会ったときに悪口の歌を歌うことや、青山様の男の子たち同士の喧嘩は行われなくなっています。

ぼんぼんの装束について、江戸と現在の松本を比べてみます。まず、頭に飾る花ですが、江戸ではかんざし様の髪飾りを鉢巻きで留めているのに対し、松本は紙の花です。また、江戸のぼんぼんは昼間に行われるため、乳母らが日傘を差しかけています。着物は、江戸が振り袖なのに対し、松本はほとんどが浴衣で小さい子の振り袖が混じる程度です。また、江戸では二つ折りにした帯を袈裟(けさ)がけにして襷(たすき)としていますが、松本は兵児帯(へこおび)を襷がけにしている子がわずかに見られます。江戸では、みな太鼓を叩

正保の頃（1650 年頃）の江戸のぼんぼん

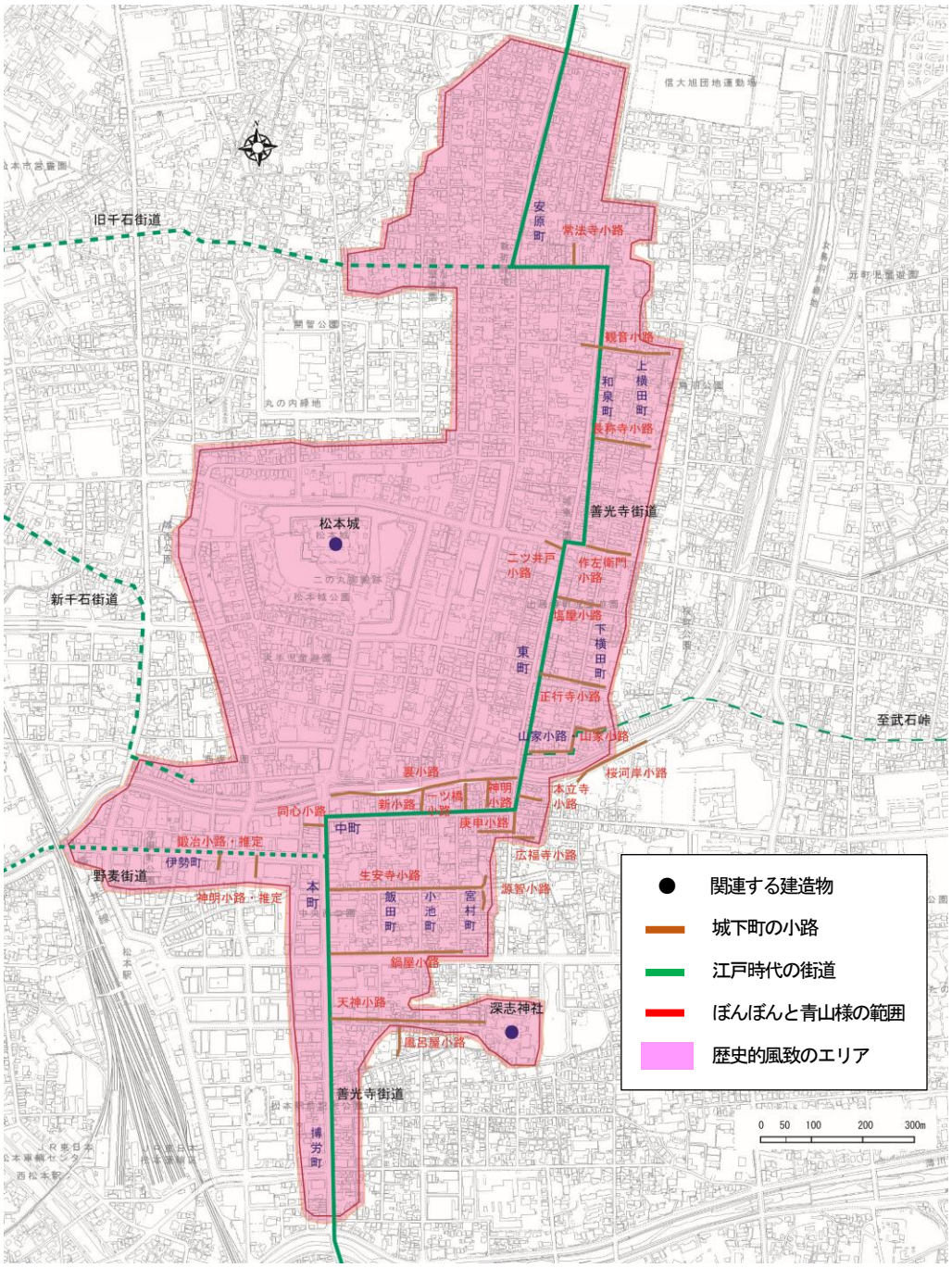
現在の松本の装束

いていますが、夕暮れの行事となった松本では手に持つ道具はほおずき提灯に変わっています。

エ　まとめ

８月のお盆前の夕方、城下町の町並みに、ポックポックという下駄の音とともに聞こえる哀愁を帯びた女の子のぼんぼん唄と、「青山様だい、ワッショイコラショ」という勇ましい男の子の青山様の掛け声が聞こえます。江戸時代の七夕踊りの習俗を今に伝えるぼんぼんと青山様は、松本の夏の風物詩として今日まで連綿と続いており、城下町の名残をとどめる市街地環境と一体となって、歴史的風致を形成しています。

ぼんぼん（中町）


旧千石街道
安原町
誉法寺小路
観音小路
上横田町
和泉町
長称寺小路
善光寺街道
松本城
二ツ井戸小路
作左衛門小路
新千石街道
塩屋小路
下横田町
東町
正行寺小路
至武石峠
山家小路
山家小路
桜河岸小路
要小路
神明小路
本立寺小路
新小路
少橋小路
同心小路
庚申小路
中町
搦治小路・推定
伊勢町
広福寺小路
野麦街道
生安寺小路
源智小路
神明小路・推定
本町
飯田町
小池町
宮村町
鍋屋小路
天神小路
深志神社
風呂屋小路
善光寺街道
博労町
関連する建造物
城下町の小路
江戸時代の街道
ぼんぼんと青山様の範囲
歴史的風致のエリア
0 50 100 200 300m

歴史的風致のエリア